

科目名	教職論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	山本 裕詞			
開講期	I			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要な「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。			
達成目標	1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。			
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	期末試験50%、授業末に実施する小テストや課題提出物等50%の割合で総合評価。	
教科書	テキストは使用しませんが、最新版の教育小六法を用意すること（例えば、『教育小六法2018年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。			
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
オフィスタイム	月曜V限（16:10～17:40） 火曜I限（8:50～10:20） 場所：教職課程推進室（家政学館4階奥左） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：シラバスの項目について、図書館やインターネット等を活用して調べ、疑問点を明らかにしておくこと（1時間） 事後学習：授業での学習内容を振り返り、ノートを補完する（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える
2	学校教育の機能1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理
3	学校教育の機能2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教員観と教員に求められる資質の関係 (2) 専門職としての教員
5	学校の組織と運営1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等
6	学校の組織と運営2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化
7	教諭の教育活動1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務
8	教諭の教育活動2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間
9	教諭の教育活動3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史の変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ

科目名	教育原理		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	関川 悦雄, 山本 裕詞				
開講期	I				
授業概要	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせ、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスを培うようにする。</p> <p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>				
達成目標	<p><履修カルテの評価項目：到達目標></p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになったか。</p> <p>④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>				
受講資格	短期大学部 音楽科 1年 2単位	成績評価方法	<p>①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価は本授業満点100点のうち10点。</p> <p>②学期末筆記試験結果は、100点の内80点。この2つの総合点に、授業中の真摯さや積極性が見られた学生には加算する。他方、欠席等が多い場合やレポート提出のない学生には、総合点から減点措置をとる。</p>		
教科書	<p>特に指定しない。</p> <p>しかし、毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布するので、授業内容を忘れるということは決してない。それらを順序良くファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。</p> <p>尚、次の、参考書の欄を参照のこと。</p>				
参考書	<p>①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世共編『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。</p> <p>②第8回からの授業は、教育制度の観点から教育原理の理解を深めることとなるため、最新の『教育小六法』を持参すること。その他一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。</p>				
学生への要望	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調べ的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望</p> <p>教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがあり、先ずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。</p> <p>授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。 				
オフィスタ임	<p>随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。</p> <p>関川：e.sekikawa@koriyama-kgc.ac.jp 山本：y.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jp</p> <p>メールですぐに返事を出します。その折、面談可能な日時や面談場所について明示します。</p>				

自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は「予習」となる。授業後の内容再理解の「復習」は重要で、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置
2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換。 本討論を通して、学校教育の意味と意義について考えるように誘う。 2 主観的生育環境から客観的学校教育体系とそこでの人間形成本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育“education”の語彙の起源からさぐる「教育」の意味 2 人間的成長の本質を考える 植物の成育、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域の教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代の教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：①古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世～近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論的教育思想（科学的人間観の教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：②近世～現代の部	4 子ども中心の教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。
6	日本の教育思想	1 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間的熟成：儒教的人間像 2 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動の中の学校教育 3 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそれらの変化 4 経済発展の中での受験体制と偏差値という重圧

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	学習指導要領と学校教育の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 2 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 3 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 4 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則 <p>戦前・戦中の教育勅語体制との比較において、戦後の、いわゆる憲法・教育基本法体制の理解を深めます。また、その延長にみる平成18年教育基本法全部改正の意義を考察します。</p>
9	日本の教育制度と行政	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム <p>日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。</p>
10	学校制度の類型	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い <p>学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。</p>
11	「学校」という空間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷 <p>子どもの学びの形の多様化を、それが生じた背景を含めて理解することで、現状が抱える課題を可視化します。</p>
12	生涯学習社会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状 <p>生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。</p>
13	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈 2. 群生秩序と普遍秩序 3. いじめ防止対策推進法 <p>「いじめ」研究による「いじめ」の構造について理解を深めた上で、いじめ防止対策推進法の内容を確認する。また、近年生じた「いじめによる自死」事件を分析し、当該ケースの問題点を考察する。</p>
14	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界 <p>「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。</p>
15	授業のまとめ	授業のまとめと確認を行う。

平成30年度

科目名	特別活動論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄		
開講期	Ⅲ		
授業概要	本講義では、学校教育における教科外活動について、その教育課程上の位置づけや教育的意義を基本的に理解し、その上で学習指導要領における特別活動、すなわち学級（ホームルーム）活動・生徒会活動・学校行事などの各目標・内容・指導法について体験的に理解できるようにすることを重要な目的とする。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校教育における教科外活動の意義を理解できる。 2 学級活動の教育的意義とその指導内容・方法を理解できる。 3 生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導内容・方法を理解できる。 		
受講資格	中学校教諭の教員免許の取得を目指す学生	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。
教科書	関川悦雄『最新特別活動の研究』（啓明出版）を使用する。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。 ugg28553@m4.dion.ne.jp		
自学自習	教科書を各章の各項目見出しごとに、それに沿って熟読すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	講義ガイダンスと課外活動のアンケート	この授業の目的と授業方針を理解する。中高時代における課外活動のアンケートを行う。
2	アンケートの結果の分析と特別活動の意味	アンケート結果を分析して、特別活動の意味を明確にし、そして特別活動をどうして学ぶのかを考える。
3	教育課程と特別活動の関係	教育課程の意味・定義を明らかにして、教育課程と特別活動の関係をとらえる。
4	教育的価値の認められた課外活動の実例（1）	19世紀イギリスのラグビー・スポーツと明治期の遠足の始まり・実態とその意義を考える。あわせて、現在の遠足の意義も明らかにする。
5	教育的価値の認められた課外活動の実例（2）	明治期の運動会と学芸会のそれぞれの始まりと実態とその意義を考える。あわせて、現在の運動会と学芸会の意義も明らかにする。
6	教育的価値の認められた課外活動の実例（3）	大正期の相談会と昭和前期の課程外指導・修練課程の実態とその意義を考える。あわせて、現在の学級活動の意義にも触れる。
7	課外活動の教育課程化とその条件	課外活動の教育課程化とはどういうことか。そして、G. ジョーンズが提起したその課程化の条件に何があつて、特別活動はその条件を充足するのか。
8	教科課程の決まり方と自由研究の新設	教科課程はどのようにして決まるか。また、自由研究の新設・内容・問題点を明らかにする。この自由研究が次の特別教育活動にどう継承されるか。
9	特別教育活動の登場と特別活動の成立	特別教育活動の登場とその用語の意味を考える。学習指導要領の性格の変化と、特別教育活動から特別活動への変更はどうかされたか。
10	特別活動の教育課程化の歩みの整理	戦後における自由研究—特別教育活動—特別活動の歩みを教育課程化の条件に沿って整理する。そして、特別活動の教育基本法における位置づけを明確にする。
11	学習指導要領の改訂とねらい	学習指導要領の改訂（2008年）の経緯とそのねらいを明らかにする。
12	特別活動の改訂と目標	特別活動はどのような基本方針のもとにどう見直されたのか。そして、特別活動の目標はどのように規定されているか。
13	学級活動の目標と内容	学級活動はどのような目標のもとに行われるのか。そして、学級活動は、学級担任の教師によって担当されるが、どんな内容のものを扱われるのか。
14	学級活動の指導法と生徒会活動の内容	学級活動の取扱い・指導法を整理し、生徒会活動との関連を考え、その活動内容を明示する。
15	学校行事の活動内容と全体のまとめ	学校行事の意義とその活動内容を明示し、最後に特別活動全体のまとめを行う。

科目名	教育実習 I	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 1単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 1単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	Ⅲ		
授業概要	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままでは生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。		
達成目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ②事後指導時に提出させるリフレクションシート (20点) ③実習反省の発表 (30点) ④最終レポート「教育実習を終えて - 私の課題 - 」 (1200字) (20点)
教科書	「教育実習－マニュアルと記録－」(本学様式)をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。		
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版(東信堂)		
学生への要望	1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3. 教育実習の受入校(生徒と教師)に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。		
オフィスタイム	火曜Ⅲ限(12:50~14:20) 水曜Ⅱ限(10:30~12:00) 場所:教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学修:当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。(30分) 事後学修:授業を踏まえて、課題に取り組むこと。(30分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、事前指導1(大学・短大合同)	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)
2	事前指導2(大学・短大合同)	・教育実習日誌の書き方 ・評価と指導の一体化について ・実習に臨むにあたっての不安と期待(小レポート)を読んで
3	事前指導3(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その① ・礼儀作法、スピーチの練習 ・学級活動の指導(ホームルーム) ・特別活動の指導(各種学校行事)
4	事前指導4(大学・短大合同)	・教育実習の不安克服に向けての具体的な事前準備その② ・教科の指導(板書、教具の活用など) ・御礼状の書き方
5	事前指導5	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
6	事前指導6	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
7	事前指導7	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)
8	事前指導8	・模擬授業(大学・短大合同) ・教科指導案(細案)の個別指導 ・道徳指導案の個別指導(短大)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	事前指導9	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
10	事前指導10	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
11	事前指導11	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
12	事前指導12	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業（大学・短大合同） ・指導案（細案）の個別指導 ・道徳指導案の個別指導（短大）
13	事後指導 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
14	事後指導 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの提出
15	事後指導 3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習体験の発表 ・他者評価と自己反省 ・まとめ

平成30年度

科目名	教育実習Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 4単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	山本 裕詞,		
開講期	通年		
授業概要	<p>教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。 		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。 		
受講資格	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績評価 方法	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点（100点）とする。
教科書	教育実習 マニュアルと記録ー		
参考書	事前指導の際に連絡する。		
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかり行うこと。受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。		
オフィスタイム	<p>月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		
自学自習	<p>事前学修：当日の実習内容をよく確認しておくこと。（60分） 事後学修：その日の実習を踏まえて、授業準備や課題に取り組むこと。（60分）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備
2	オリエンテーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録
3	現場実習	実習校での現場実習
4	現場実習	実習校での現場実習
5	現場実習	実習校での現場実習
6	現場実習	実習校での現場実習
7	現場実習	実習校での現場実習
8	現場実習	実習校での現場実習
9	現場実習	実習校での現場実習
10	現場実習	実習校での現場実習
11	現場実習	実習校での現場実習
12	現場実習	実習校での現場実習
13	現場実習	実習校での現場実習
14	現場実習	実習校での現場実習
15	教育実習成果報告会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決

科目名	教職実践演習		対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令, 磯部 哲夫			
開講期	IV			
授業概要	授業の概要 本演習では、以下の4事項を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。			
達成目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 ②生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4. 教科の指導力に関する事項 ④中学校の音楽、美術、家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。			
受講資格	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績評価 方法	外部講師の講演を受けてのレポート（担当 佐久間）：10点×2回＝20点 「教科の指導力」（担当 難波・磯部・黒沼）：30点 「特別支援教育」（担当 佐久間）：10点 「附属高校の訪問報告書」（担当 佐久間）：10点 「コミュニケーション」（担当 折笠）：20点 「まとめ」の領域における評価（担当 佐久間）：10点	
教科書	授業の際に、配布する「教職実践演習ノート」			
参考書	授業の際に、各担当教員より配布される。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分） 事後学習：授業を踏まえて、課題に取り組むこと。（60分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	①履修カルテの整理をすすめながら、これまでの教職課程における学びを振り返る。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法の説明 担当：佐久間邦友 菊池節子 磯部哲夫 黒沼令
2	気になる子の理解と対応について	ゲストスピーカーによる講演 担当：ゲストスピーカー（佐久間邦友）
3	福島県における教育の現状・課題としての教師の役割	福島県教育庁関係者による講演 担当：福島県教育庁関係者（佐久間邦友）
4	「特別支援教育」の現状と課題	福島県内特別支援学校教員による講演 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
5	附属高校訪問と講話	附属高等学校を訪問し、講話をいただく。 担当：ゲストスピーカー2名（佐久間邦友）
6	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
7	児童・生徒・保護者との円滑なコミュニケーションの方法について	円滑なコミュニケーションの方法について学修する。 担当：折笠国康
8	（音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同）研究授業指導案の改善と発表① ～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 研究授業指導案の改善と発表② ～家庭科～	家庭科の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
10	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い① ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
11	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い② ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
12	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 模擬授業の発表と改善のための話し合い③ ～栄養教諭～	栄養教諭の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：菊池節子 佐久間邦友
13	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ～美術～	美術の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：黒沼令 佐久間邦友
14	(音楽科・美術科・家庭科・栄養教諭合同) 教科の専門技能の発表と改善のための話し合い① ～音楽～	音楽の授業について、4教科合同で学びを深める。 担当：磯部哲夫 佐久間邦友
15	まとめ	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：菊池節子 佐久間邦友

科目名	教職キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	山本 裕詞, 関川 悦雄, 小林 徹, 難波 めぐみ, 菊池 節子, 折笠 国康, 亀田 明美,			
開講期	Ⅲ			
授業概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。 講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。 また、4、5月に行われる模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、キャリア形成の一助となるようにした。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを期待する。			
達成目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
受講資格	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、短大2年生、卒業生を対象とする。	成績評価 方法	平常点により「認」評価。	
教科書	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。			
参考書	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。			
オフィスタイム	火曜Ⅲ限（12:50～14:20） 水曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 教職教養に関する出題想定問題を解き、自己の現状を知る。 担当：山本
2	面接と討論（入門編）	採用試験対策としての面接、討論の在り方の基礎を学ぶ。 個人面接、集団面接、討論について体験的に学ぶ。 担当：山本
3	小論文（入門編）	「小論文のポイント」を踏まえ、与えられたテーマをmとに、小論文を書いてみる。 担当：山本
4	小論文（応用編）	前時に書いた小論文に関し、評価を受ける。 自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：関川
5	特別支援教育	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本
6	教育原理	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：関川
7	教育法規	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本
8	場面指導（入門編）	採用試験における場面指導の在り方を知り、自己の指導観を確認する。 担当：山本
9	教科別指導①	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
10	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
11	教科別指導③	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解をさらに深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池
12	場面指導（応用編）	既に学んだ場面指導に関する基礎的理解をもとに、採用試験を想定した場面指導について、体験的な学びを通して、さらに理解を深め、具体的に対応できる力を身につける。 担当：山本

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	個人面接	自己をPRする力をつけるとともに、採用試験に対応できる面接スキルが身につけていることを確認し、教職への意識をさらに高める。 担当：折笠、亀田、富士盛
14	集団討論	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をとおして、他者と討議する力を高める。 担当：折笠、亀田、富士盛
15	教育時事	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：山本